



《目次》

◆お知らせ/イベント情報など

【受付中】「対話型全国説明会」4会場の参加お申し込みを受付中

【イベント】コミュニケーション3Dシアター「ジオ・ミライ号」の今後の予定と出展報告

◆その他

【NUMOのひと】技術部 高林

【よくあるご質問】なぜ地上管理では問題があり、人の管理を必要としない「最終処分」が必要なのですか？

【11/12付NUMOコラムの訂正】

◆お知らせ/イベント情報など

【受付中】「対話型全国説明会」4会場の参加お申し込みを受付中

「高レベル放射性廃棄物の最終処分に関する対話型全国説明会」について、
現在4会場の参加お申し込みを受付中です。

初めての方も大歓迎です。皆さまのお申し込みをお待ちしています。

(開催日程)

- ・12月11日(水)：兵庫（西宮市）西宮市フレンテホール
- ・12月21日(土)：青森（八戸市）ユートリー
- ・12月22日(日)：青森（弘前市）ヒロロ
- ・1月22日(水)：静岡（沼津市）プラサヴェルデ

▽「高レベル放射性廃棄物の最終処分に関する対話型全国説明会」の詳細や
参加お申し込みについてはこちら

<https://www.numo.or.jp/taiwa/2018/>

【イベント】コミュニケーション3Dシアター「ジオ・ミライ号」の今後の予定と出展報告

■今後の予定

○12月8日(日)：スターピアくだまつ【周南ゆめ物語～かがくスクウェア～】

(山口県下松市)

▽詳細についてはこちら

<https://www.numo.or.jp/topics/201919112814.html>

■出展報告

○11月17日(日)：奈良女子大学【青少年のための科学の祭典 2019 奈良大会】
(奈良県奈良市)

○11月23日(土・祝)・24(日)：鯖江市文化の館【原発のごみ処分について考えよう】
(福井県鯖江市)

▽これまでの出展実績についてはこちら

<https://www.numo.or.jp/pr-info/pr/geomirai/archives.html>

◆その他

【NUMOのひと】技術部 高林

はじめまして。今年の4月に入構しました技術部の高林と申します。

私は現在、専門分野である地球科学の知識を活かして、主に「将来の地形がどのように変化するのか」を検討しております。長い時間をかけて地下深部に大構造物を造るといふ地層処分事業の壮大さにひかれて入構しましたが、興味があつて学び始めた知識を活かした仕事ができている、とても嬉しく思っています。

さて、秋も一段と深まり、徐々に冬の訪れを感じる季節となりましたが、みなさんはどのようにお過ごしでしょうか。ウィンタースポーツ、特にスノーボードが好きな私にとっては、グレンデに行く計画を立て始める、とてもワクワクする季節です。

スノーボードは、身体の重心移動とバランスがポイントですが、新しい技に挑戦した時などはバランスを崩すことも多く、私は過去に骨折も含め大小様々な怪我を経験しました。最近ではその回数もぐっと減りましたが、これはプロテクターなどの装備を充実させたことや、経験を積んで上手くなったことに加えて、当日の雪質や凍結箇所を意識しながら滑るようになったことなど、昔の痛い経験を糧に、状況に応じた確認と対策をするようになったことが大きいと感じています。

これは仕事においても、同じことが言えると思います。

スノーボードにおいて、過去の失敗や経験から培った眼で自分や周囲の状況を把握することが怪我の回避につながったように、仕事においても経験を積むにつれて、どこに、どのような状況でリスクが潜んでいるかを把握し、あらかじめ対策を取ることで、「リスク」がその先の「事故」に繋がることを防ぐことができます。

私たちの地層処分事業は、すべてにおいて安全を最優先に事業を実施していきます。そのために、私たちは日々、安全意識とともに、技術力のさらなる向上に努め、潜在的なリスクがないかを常に探し、事故を起こさないための設備や仕組みの検討を続けています。

あわせて、このような安全対策などをわかりやすく説明し皆さんに安心して

いただけるよう対話力を磨くことも必要です。

やることはたくさんありますが、より確実に安全な地層処分の実現に向けて業務を全うしたいと思います。

また、今年はこの安全意識をグレンデにも忘れず持って行き、もう痛い目に合わないようにしたいです。

【よくあるご質問】

NUMOホームページに掲載している「よくあるご質問」をピックアップし、ご紹介します。今回は・・・

Q. なぜ地上管理では問題があり、人の管理を必要としない「最終処分」が必要なのですか？

A.

高レベル放射性廃棄物の放射能は、短時間で比較的早く減少しながらも、長く残存します。地上施設で貯蔵管理する場合、それが人間の生活環境に影響を及ぼさなくなるまで、数万年といった長期間にわたり地上施設を維持・管理していく必要があります、その間には施設の修復や建て替えも必要となります。

さらに地上管理の場合、地震、津波、台風等の自然現象による影響や、戦争、テロ、火災等といった人間の行為の影響を受けるリスクがあります。長期にわたり、このようなリスクを念頭に管理を継続する必要がある地上施設を残すことは、将来の世代に負担を負わせ続けることとなり、現実的ではありません。

このため、人の管理を必要としない処分（最終処分）を行うべきであるというのが国際的にも共通した認識となっています。

▽「よくあるご質問」はこちら

https://www.numo.or.jp/q_and_a/

【11/12 付NUMOコラムの訂正】

前号メールマガジン（2019年11月12日付配信）に記載のNUMOコラム

「“日本一” 深い場所？ “世界一” 深い場所？」の訂正についてご連絡申し上げます。

同コラムのトンネルに関する記載において、

スイスのゴッダルド・ベーストンネルについて「深さは約 2,300 メートル」

大清水トンネルについて「深さは約 1,300 メートル」

としておりましたが、正しくはそれぞれ

「最大土被りは約 2,300 メートル」

「最大土被りは約 1,300 メートル」

と記載すべきでした。訂正してお詫び申し上げます。

注) 土被り（どかぶり）とは、トンネルのように地中に埋設される構造物の上端から地表面までの土砂や岩盤の厚さのことをいいます。

☆NUMOメールマガジンのご感想やご意見をお待ちしております

webmaster@numo.or.jp までどうぞ！

メルマガ登録はこちらから <https://www.numo.or.jp/mailmagazine/>

メルマガ解除はこちらから webmaster@numo.or.jp

(件名に「メルマガ解除」と記載してください)

ご感想、ご意見はこちらから webmaster@numo.or.jp

〔連絡先〕 広報部 TEL 03-6371-4003

NUMOホームページ <https://www.numo.or.jp/>
